

教育社会学 B

5 章 大学文化 (p37-44)

① ～大学生が昔と変わってきている?～

昔 ⇒ 「授業より遊び!」…「単位だけ取れば良い。残りはバイトや遊びに時間を費やしたい」

現在 ⇒ 「真面目に勉強しよう!」…「ちゃんと授業に出席して、先生の話を聞こう」

↓

大学生の「生徒化」(大人に従順で与えられた目標・課題を素直に受け入れる良い子)

② ～大学生はサークルに入るべき?～

部活・サークルの参加率は近年減少傾向だが、

部活・サークルに入っている学生の方が大学生活における満足度が高い

	大学生活における満足度
サークルに加入している学生	76.4%
サークル未加入の学生	64.1%

③ ～大学生は恋をするべき?～

高校・大学を通じて恋愛をしていない「恋愛無縁型」の学生 ⇒ 45.7%

大学に入って初めて交際を経験する「大学デビュー型」の学生 ⇒ 13.7%

㊦ 高校時代に恋愛を経験していないと、大学デビューは厳しい

★ 異性交際・恋愛経験のある学生は、大学時代に価値観の変化を経験する比率が高い。

★ また、異性との交際比重の「高い」学生は「低い」学生に比べて、

「毎日が充実している」 (66.4%>59.1%)

「人に負けない得意な分野を持っている」 (51.2%>45.5%)

「自分が好き」 (63.2%>54.7%)

「何事も自分で決めないと気がすまない」 (53.3%>46.1%)

「自分が何になりたいのかを考えている」 (80.6%>83.1%) と、答えている。

④ **～大学生とアルバイト～**

学生がアルバイトを決めるときに重要視する要素 ⇒ 仕事内容(32.0%), 時給(25.2%)

アルバイトをする理由 ⇒ 小遣いを増やすため(56.7%), 社会勉強のため(10.5%)

⑤ **～ジェンダー意識に見られる男女間のズレ～**

生き方や結婚観について考える際に、「仕事に就き一生働き続ける」と答えた女子学生が31.9%いたのに対し、そういう女性を理想の結婚相手とする男子学生は1割しかいなかった。

⇒男子学生は自分の意向や事情に合わせてくれる保守的な女性を好む。

一方で、女子学生は恋人の存在に左右されることなく、自立した価値観のもとに仕事や自身の生き方について積極的な考え方を持っている。

⑥ **考察・感想**

就職難の影響もあり、大学生が「勉強志向」になり資格の取得などの「社会に出たときに役立つ知識や技術」に関心がシフトしているように感じた。

大学は単なる「学問をするための場」ではなく、「様々なことを経験しながら人間的に成長できる場」であるべきだと思うので、「生徒化」されてしまうのではなく、学生は「自主的な探究心」をもちながら、教師から「自立」していくべきであると感じる。

ジェンダー意識に見られる男女間のズレは、私個人の感覚としては、近年ズレ幅が小さくなってきているのではないかと考えている。現代は女性が社会進出し、活躍する時代にすでになっており、「働く女性」に対し深い理解を持ち、自ら家事を担当したり、育児に積極的な男性も増えてきているのではないだろうか。

⑦ **議題**

1) 自分は「勉強より遊び」派か、「真面目に勉強」派か？

2) 異性との恋愛を通して、価値観が変化するような経験をしたことがあるか？

1. 勉強志向、まじめ化の傾向

2006 年に行われた調査で現代の大学生はまじめに勉強する人が増えていると分かった。

- ・「大学は学ぶ場なので、勉強を最優先にすべきだと思う」
- ・「知識ある人が知識を分け与える為に時間を割いてくれていることに敬意を払うべき」

→このようなまじめ化の傾向から、教育重視の近年の大学改革の成果の現れが分かると同時に資格を取らないと将来が不安、勉強しないといい仕事に就けないなどといったような経済不況に対して学生が適応行動をとっていることがわかる。

（学生は大学の先生に熱心に授業に取り組み、学生の知識欲を刺激し、熱意をもって学生に関わってほしいと望んでいる人が多い。熱心な先生が多い大学ほど真面目で勉強志向の学生が多い傾向にある）

2. 大学進学理由

大学に進学する理由は多様で、また大学の種類によっても異なる。

伝統総合大学・・・将来の進路や仕事について考えるため、幅広い教養を身につけるため
新興大学・・・資格などを取るため、専門的な知識や技術を得るため

大学の授業によって専門的な知識が得られたと感じている学生の比率

伝統総合大学・・・66.3%

中堅大学・・・64.0%

新興大学・・・70.9%

3. 部活動・サークル活動、友人関係

大学における部活動サークル活動への参加率は若干ながらも減少している。学生の個人化傾向とアルバイト等の忙しさ、新興大学においては部・サークルの少なさが原因とされている。

交友関係においてはどの大学においても盛んで、これは大学生活の満足度を上げる一つの要因にもなっている。

学生の大学の雰囲気への満足度 (P48) を見ると、勉強、交友、サークルの全てを重視している学生が大学への満足度が一番高く、逆にそれらを重視していない学生は大学への満足度が一番低くなっている。

→大学生活は勉強、交友、サークルという幅広い活動から見聞や経験を豊かにすることで満足度も高まる。授業以外の学生活動への支援も大切。

4. 授業内容と職業の関連

大学の授業ではもっと社会に出たときに役立つ知識や技術を教えるべきなのか、それとも単に学生が好きなことが学べて知的刺激になればよいのか

→大学の種類によって異なる傾向にあり、伝統総合大学の学生は好きなこと、知的刺激を選ぶ人が多く、新興大学の学生はその逆を選ぶ傾向がある

感想

今の大学生と 2000 年代中期の大学生の間には自分が思っていたほどの違いがなかったことが分かり、少し驚いた。大学に通う学生はそれぞれ何らかの理由から大学進学を決め、大学生活を送る。今も昔もその動機や理由は多様であり、そうであるべきだと思う。サークルに入るか入らないか、大学生活は勉強中心で行くのかアルバイト中心で行くのか、全ては自分自身で決めることであり、他人が口をはさむことではないと思う。ただ、大学生活においてその中心となるものが多様化しすぎてしまうことによって、変化していつてしまうものもあると思う。学歴さえ手に入ればよい、大学は卒業できればよいといった学生が多くなれば学位というものの本質が失われてしまうかもしれない。勉強に打ち込む学生が少なくなれば大学の意義や役割も変わってしまうかもしれない。この章を読むことで大学はどのような場であるべきかについても一度考え直すいい機会になった。最後に学士課程教育（大学の学部における 4 年間の課程の修了者に学士として学位が授与される教育方法）は学生に合わせてその教育方法を変えていくべきなのか、それとも彼らに合わせすぎず学士の資格として見合う教育方法を展開していくべきなのかが疑問に残った。

議題

・移り変わりの激しい世の中で、大学は学生にとってどのような場であるべきか。自分にとって大学はどのようなバカ。

・今までの自分の大学生活を振り返ったとき、その生活にどれだけ満足しているか。そう思った根拠は何か。

人々ある人に比べ、大学でニュータイプ（＝大学が社会を経営する）になる確率が低いという点に驚きました。更に、「天啓が果大にエリ別れた一歩」の通り進めるに「差違」が出てくるという点にも驚きました。しかし別れは直後深く踏み込みが長く続きます。その次に次のように目を見張るような道と見えても納得がいきました。更にランダーマンによって開かれた、確かに永遠に学生は男性が結婚後も働くということに肯定的な立場とは明かしく、むしろ上世代（20代後半〜30代前半）の人達と言った場合、降ろしてやらなければならない不便を守る保守的な女性を求める人が多いという考えを述べました。議題上に限れば、取組む授業を取り入れる学生が、取るべきではないという、授業の方向性について、学生によっては「遊んでいる」「知識派」の分かれ方に差があるかと思われました。その皇太子への発表において、伝統総合大学と新興大学という区分も授業内容、その目的が異なるところには驚きました。しかし、同じを見てみると、系統別に役立ち知識や技術の面で学んだ学生が多く、そして知識が豊富になりました。私もそうでしたが、社会に出るための知識や技術を身につける新興大学の学生よりも学生としてトレーニングを必要とし過ぎる、知的刺激を求めず学ぶ学生が多い、伝統総合大学の学生のほうが一般企業に就職しやすい、という点には疑問を感じました。皇太子も述べていたように、単位を得るために大学に手出しが多いと学習意欲としての大学は空回りしてしまうのではないかと思います。この点も私は自身の学びたい学習の平に深く感じています。

11月22日
神田外語大学

レン」といふ考えに、彼れがさけるというお話がありまいた。個人的に思ふことは、神田外語大学の教職課程に身を置いてゐる限り、「授業力遊び」という風にはたはらない、たはれないのが正しいか、ということであらう。遊びはしめられ、授業と大所い遊び遊び」ということは正しいけれど、それは自分にとり有り得ないことだと感じました。手、と章、と章のどちらにもサークルのお話があり、と章においては、一語活、サークルに入つてゐる学生の方が大学生活における満足度が高いと言われているが、私もその通りだと思ひます。自分自身、サークルに入つて友人が増え、先輩・後輩との関わりが持つ、何か頑張るための目標、がでた、大学生活を充実させることができた。高校生にどの大学に入つて、サークルや部活には入つた方がよい」と伝えるよりよいと思ひます。サークルの役割は大きく、活動への参加は減つてゐるという点で、確かにその大学がサークルに参入してゐる人の割合は少くないと感じます。これは勉強やアルバイトに時間とられるからではない、と思ひました。